

令和6年度
奈良県立大学附属高等学校
入学者一般選抜検査問題

国語

注意事項

- 1 指示があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 2 答えは全て解答用紙の解答記入欄にマークしてください。例えば、

10

と表示のある問いに③と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答記入欄の③にマークしてください。

(例)

解答番号	解答記入欄
10	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

- 3 印刷ミスなどがあれば、静かに手を挙げて監督の先生に知らせてください。
問題内容についての質問には答えられません。
- 4 不正行為は絶対にしないようにしてください。

次の各問いに答えよ。

- (一) 次の(ア)、(イ)の文の―――について、漢字はその読み方として最も適切なものを、カタカナは漢字に直したときに最も適切なものを、それぞれの①～⑤から一つずつ選び、その数字を、(ア)は解答番号 **2** に、(イ)は解答番号 **1** に、(イ)は
- (ア) 人目を避けて深い川底に潜む魚。
- ① ひそ ② しず ③ ひる ④ たたず ⑤ す
- (イ) 弟は母の言いつけをキンカ玉条のように守り続けていた。
- ① 金貨 ② 禁火 ③ 近家 ④ 近火 ⑤ 金科
- (二) 次の文の() にあてはまる言葉として最も適切なものを、後の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 **3** にマークしなさい。
- ・ボランティア活動の参加者募集に申し込んだが、当日の朝、ふと本当に自分にできるのだろうかと考えて、() を踏んでしまった。
- ① 二の足 ② 二の次 ③ 二の腕
④ 二の句 ⑤ 二の矢
- (三) 次の①～⑤の語句の() には漢字一字があてはまる。他と異なる漢字があてはまるものを①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 **4** にマークしなさい。
- ① () 常識な考え方
② () 完成の作品
③ () 日常を楽しむ
④ () 公式の会合
⑤ () 営利の団体

- (四) 次の文の―――と品詞が同じ「楽しみ」を用いた文を、後の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 **5** にマークしなさい。
- ・毎日を楽しみながら前向きに生きています。
- ① 歌を歌うのが楽しみの一つです。
② 母の楽しみはお菓子を作ることらしいです。
③ 未来は楽しみでもあり不安でもありません。
④ 一緒にサッカーの試合を楽しみましょう。
⑤ 休日の旅行を楽しんでいます。
- (五) 歴史的仮名遣いとそれを現代仮名遣いに直したものの組み合わせとして適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 **6** にマークしなさい。
- (歴史的仮名遣い) ↓ (現代仮名遣い)
- ① いんぐわ ↓ いんご
② けふ ↓ けう
③ らうたし ↓ ろうたし
④ くもみ ↓ くもえ
⑤ はうぢやう ↓ ほうぢやう

次の文章を読み、各問いに答えよ。

中学一年生の千春と那彩は、天文部に所属している。週末に那彩の家と一緒に星を見ることになり、千春是那彩の住むマンションへ向かった。

川沿いの道をしばらく走り、白壁の大きなマンションに着いた。

エントランスの前で、那彩が手を振っていた。ひまわり色のＴシャツにデニムのスカートを合わせ、制服のときよりおとなっぽい。学校ではひとつに結んでいる髪をおろしているせいもあるかもしれない。

エレベーターで七階まで上がる。長い外廊下にドアがずらっとならんでいる。七〇五号室に、藤沢と表札が出ていた。

「入って」

那彩がドアを開けてくれた。奥で子どもの音がする。テレビらしき音も聞こえる。

「おじやまします」

千春が靴を脱ごうとしていたら、ばたばたと威勢のいい足音が近づいてきた。

おそろいのボーダー柄のＴシャツを着た男の子がふたり、廊下を走ってくる。玄関口にならべてある小さなスニーカーは、この子たちのものだろう。

「下のふたり。小二と、幼稚園の年長組。一番上は今出かけてる」

那彩がときばきと紹介した。

「ふたりとも、お客さんにご挨拶は？」

おとなっぽい、を通りこして、もはやお母さんっぽい。

「こんにちは！」

未知の天体に遭遇したかのように目を見開いて千春に注目していた弟たちが、元気いっばいに叫んだ。

「こんにちは」

千春も緊張しながら挨拶した。身近に小さい子がいないので、どんなふうに接したらいいのか要領がつかめない。

「いらっしやい」

那彩のお母さんも出てきた。母娘で目もとがよく似ている。

「騒々しくて、ごめんなさいね」

たしかに、にぎやかな家だった。

那彩の部屋に案内されてひと息つくやいなや、弟ふたりが乱入してきた。ミニカーやら、昆虫図鑑やら、幼稚園で描いたという絵やら、自慢の品々を次から次へと持ってきては、ことこまかに説明してくれる。実の姉は、「わかったわかった、いいからあっちで遊んでな」とそっけなくあしらっているが、千春のほうはそうもいかない。とっておきのお宝をひとつひとつ眺め、話を聞いた。

おかげで、すっかりなつかれてしまったようだ。

夕ごはんを食べているあいだも、ひっきりなしに話しかけられた。さらに那彩も、お母さんと上のお兄ちゃんも、よくしゃべる。ときには二、三人がいつせいに話し出すので、どっちに顔をむけるべきか、千春はまごついた。那彩いわく「話の長い」お父さんが留守じゃなかったら、もっと大変だったかもしれない。娘たちといっしょに星空を見ようとはりきっていたのに、急な出張が入ってしまったらしい。

食事がすんで弟たちが子ども部屋にひっこむと、ようやく落ち着いた。千春是那彩に連れられて、リビングに面したベランダに出た。椅子がふたつ、手すりのほうをむいてならべられ、その奥に立派な望遠鏡も出している。部活で使っている機種よりもひとまわり大きい。

本格的な望遠鏡に千春が目をうばわれていたら、那彩が悲鳴を上げた。

「やば、雲が出ちゃってる」

千春も空をあおいだ。うすい雲がもやもやと広がって、月にかかってしまっている。

幸い、ところどころに晴れ間もあった。西の空の金星はちゃんと見え

た。そのそばに浮かぶ火星や、赤く輝くさそり座のアンタレスも。はじめて望遠鏡で夜空を眺める千春には、じゅうぶん楽しめた。

「が、那彩は悔しそうだった。」

「もっと見えるときもあるんだけどな」

へたりこむように、椅子に腰を下ろす。

「ごめんね、せっかく来てもらったのに」

千春もとなりに座った。

昼間は汗ばむような陽気だったのに、日が落ちてぐっと涼しくなっている。川のほうからかすかに水音が聞こえてくる。ちょうど雲が切れ、三日月の淡い光がベランダにさした。

「ここ、いいね。落ち着く」

千春は言ってみた。那彩の表情がわずかにほぐれた。

「そうだ、月も見てみる？」

「うん。見たい」

千春が腰を浮かせたとき、背後で声が出た。

「もう終わった？」

振りむくと、リビングの網戸に三兄弟がはりついていた。そろって両手を高く上げ、白目をむいて変な顔を作っている。

「ゲームやろうよ」

千春はふきだしてしまっただが、那彩はにこりもしなかった。

「やらない」

うっとうしそうに片手を振って追いはらう。しかられた犬みたいになだれ、すすごと去っていく三人を見送って、千春はなにげなくたずねた。

「弟さんたちは、星にはあんまり興味ないの？」

お父さんの話を聞いて、てっきり家族そろって天体好きなのかと思っていたら、それでもなさそうなのだ。弟たちは電車やカブトムシやサッカー選手に夢中のように、食卓でも星の話題はほとんど出なかった。

「うん、お父さんとお姉ちゃんの趣味ってことになってる。そんなにおもしろいもんじゃないよ、ってあたしからも言い聞かせてるし」^B

「そうなんだ？」

那彩はあんなにも熱心に、千春を星の世界へ誘ってくれた。弟たちにも同じことをしそうなものなのに。

「まあ実際、ちびっ子むけじゃないから。夜遅くなるし、望遠鏡こわされそうだし、それに……」

那彩は口ごもり、ふらりと立ちあがった。ベランダの手すりにもたれて腕をひっかける。

「じゃまされたくないかったんだよね、あたしが。最近は大いぶましかけど、弟たちがもつと小さかったころって、親と話せる時間がそこしかなくて」

思ってもみない答えに、千春は意表をつかれた。ひとりっ子にとっては想像したこともない悩みだ。

言葉につまっていると、那彩が勢いよく振りむいた。

「いや、昔の話だよ？ 今ほもう、純粹に星が見たいだけ。お父さんと話したいとか、全然思わないし。てか、熱く語られるとめんどくさい」

早口でまくしたてる。

「千春はどうなの？ お父さんと仲いい？」

「ふつう、かな」

仲はよくも悪くもない。と思う。

というか、いいとか悪いとか断言できるほど、密にかかりあっていない。藤沢家のように共通の趣味があるわけでもなく、お父さんと千春がふたりきりで過ごすこと自体めったにない。家族三人でいるときは、しゃべるのはたいていお母さんと千春で、お父さんはせいぜい相槌を打つくらいだ。

「大事なひとり娘なの？ めちゃくちゃ愛されてるんじゃないの？」
那彩はげげんそうに言う。どうも、ひとりっ子に対して先入観がある

ようだ。

愛されていないわけではないだろう。でも、たとえば那彩がそうしているというように、父娘水入らずでこのベランダに立つことになったとしても、おたがい話題に困りそうだ。

昔はもう少し会話があった。いつからこうなってしまったのか、はっきりとは思えない。なにか特別なきっかけがあったわけではない。千春が小学校の高学年になったあたりから、なんとなく、少しずつ、自然に遠ざかっていったような気がする。

「那彩はお父さんとどんなことしゃべるの？」

「え、たいしたことじゃないよ。星のこととか、あたしや弟たちが小さかったときのこととか。おとなってさ、昔の話が好きすぎない？」

「だね」

おじいちゃんの家に行ったり、親戚が集まったりすると、毎度決まって同じ話がくり返される。デパートで迷子になったことも、従妹の家でおねしょしたことも、千春自身の記憶ではなく、あとから聞いた話を通して頭に刻みこまれてしまっている。いつまでも蒸し返すのはやめてほしいのに、おとなたちは楽しそうだ。あきないんだろうか。千春はもう聞きあきた。

「自分ではまったく覚えてないんだけど」

と、那彩もゆううつそうに言う。

「パパと結婚したいって言ってたんだって、あたし。三歳児の言うことを本気にしないでほしいよね。あとさ、なんか、女の子は父親と同じタイプを好きになる説とかもあるんだよね？」

「ああ、聞いたことあるかも」

好きなタイプ、というのは、小学校でもたまたま女子のあいだで話題に上っていた。千春は一応話を合わせつつも、本音ではあんまりぴんときていなかった。

もちろん、優しいほうが、優しくないよりいい。スポーツは得意なほ

うが苦手よりいいし、頭がいいほうがそうじゃないよりいい。当然だ。ただ、それを「好き」という言葉と組みあわせようとすると、しっくりこない。

そういうえば、那彩とはこれまで「好きなタイプ」についても「好きな男子」についても話したことがない。

千春ははっとして、那彩の横顔を盗み見た。そういうことに関心がうすいのだろうとばかり思いこんでいたけれど、千春に合わせてくれた可能性もある。星の話ばかりしすぎじゃないか、いやな気持ちにさせないか、と問いただしてきたときの、思いつめたまなざしを思い出す。おおらかで細かいことにこだわらない性格のようで、意外なところで気をつかっているのだ。

那彩は月を見つめ、せつなげにため息をついている。

もしや、具体的な相手もいたりして。那彩が話したいのなら、千春も拒むつもりはない。役立つアドバイスをしたり相談に乗ったりするのは無理でも、話を聞くくらいならできる。

那彩が空をあおいだまま、無念そうにうめいた。

「今日はもう、これ以上は無理かなあ」

どうやら、那彩の頭を悩ませていたのは、男子ではなく星のことだったようだ。

肩の力を抜いて、千春も空へ目を移した。考えすぎだったらしい。いつのまにか雲が厚くなっている。月も完全にかくれてしまった。

「しょうがない、来月に期待だね」

那彩が言った。

(瀧羽麻子『ひこぼしをみあげて』より。出題の都合により一部文章を省略した箇所がある。)

(一) ^A 那彩の表情がわずかにほぐれた とあるが、このときの那彩の気持ちの説明として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 **7** にマークしなさい。

- ① 千春に喜んでもらおうと望遠鏡を準備したが、千春が満足しきれないことに気づき、自分の空回りを恥じてごまかそうとしている。
- ② 天候不順で観測に良い環境が整えられなかったことを悔しがっていたが、千春の楽しそうな姿を見て、うれしさに舞い上がっている。
- ③ 千春のために準備したことで、かえって千春に気をつかわせることになったと気づいたが、千春の細やかな気配りにほっとしている。
- ④ 雲のない万全の環境で千春に星空を見せる計画が思い通りにいかず、落ち込んでいたが、穏やかな千春の様子に気を取り直している。
- ⑤ うまく準備ができなかったことを反省していたが、予想外に千春が楽しめていることがわかり、自分も楽しもうと切り換えている。

(二) ^B そんなにおもしろいもんじゃないよ、ってあたしからも言い聞かせてるし とあるが、那彩がこのように言い聞かせているのはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 **8** にマークしなさい。

- ① 天体観測は暗い中で高価な機材を使う趣味なので、やんちゃな弟たちが一緒だと、観測中に機材を壊されてしまう心配があったから。
- ② 天体観測は小さな子供に向かないという建前以外に、弟たちにじまされずに父親と話をする時間がほしいという本音があったから。
- ③ 建前上弟たちのことが好きな姉を演じているが、本音ではひとりっ子のように過ごしたく、少しでも弟たちと距離を置きたかったから。
- ④ 弟たちのうるささに日頃からうんざりしており、せめて大切な趣味は誰にもじゃまされず、のんびりと少人数で楽しみたかったから。
- ⑤ 天体観測は自分にとってはおもしろいが、弟たちには早いと思っており、天体観測の魅力がわかる父親と二人で楽しみたかったから。

(三) ^C けんそうに言う とあるが、このときの那彩の気持ちとして最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 **9** にマークしなさい。

- ① うるさい弟がいて、常に騒がしい自分の家と比べて、誰にもじゃまされずに親を独り占めできる千春をうらやましく思う気持ち。
- ② 大事なひとり娘であり、両親からとても愛されているにもかかわらず、千春が父親とそれほど仲良くないと知って心の底から驚く気持ち。
- ③ ちょっとした気持ちのすれ違いで、親の愛情をきちんと受け止めていない千春に、親の愛情を気づかせてやりたいと願う気持ち。
- ④ 自分には兄弟がたくさんいてわいわい楽しくやっているため、ひとりっ子の寂しさが理解できず、千春に対して申し訳ない気持ち。
- ⑤ 兄弟がおらず、親の愛情を一身に浴びているはずなのに、父親の愛情をあまり感じていない千春の様子が理解できない気持ち。

(四) この文章の表現の特徴の説明として適切ではないものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 **10** にマークしなさい。

- ① 会話を中心に置いて、お互いに気をつかい合う千春と那彩の微妙な心情の動きを巧みに表現している。
- ② 那彩の家族の様子を、擬態語や比喻表現を用いてリアルに生き生きと描写している。
- ③ 千春や那彩の心情を、会話文以外の部分で本人の視点から描き、心情の変化をありありと伝えている。
- ④ 千春と那彩を対比的に表現することで、二人の家庭環境や家族との関わりの違いを描き出している。
- ⑤ 体の一部の名称を使った慣用句などのさまざまな慣用表現を使って、人物の心情を表している。

(五) 那彩の人物像の説明として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 **11** にマークしなさい。

- ① 心情表現が率直で細かいことは気にせず思ったことを言葉にするタイプだが、長女らしい大人びたところがあり、相手の気持ちを考えた気遣いもできる人物。
- ② 表面的には長女として弟たちと仲よく暮らしているが、自分から親を奪う存在として弟たちをうとましく思っており、友情で寂しさを埋め合わせている人物。
- ③ 弟たちに対しては年上らしく振る舞い、友達に対しては率直で思いやりのある態度で接しているが、父親に対しては複雑な感情を持て余している人物。
- ④ 思ったことをなかなか口に出せず寂しさを抱えがちではあるが、頼りがいがあるので弟たちから慕われ、家族の愛情に支えられて力強く生きている人物。
- ⑤ 家族や友達とのにぎやかな時間を好むが、細やかさも持ち合わせており、自分がしたい異性についての話題を避けるなど千春の性格に合わせられる人物。

(六) この文章を読んだ生徒たちが、那彩と千春の、それぞれの家族との関わりについて話し合いをしながら次の【表】にまとめています。話し合いの中で、本文中の内容に合わない発言をしている人物の名前を、後の①～⑥から一つ選び、その数字を解答番号 **12** にマークしなさい。

【表】

項目	人物
家族構成	那彩
父親との関係	千春
	両親と弟三人の六人家族。
	ひとりっ子。両親と三人家族。
	X
	Y

なおおこさん では、【表】の **X** と **Y** の欄にどのような内容が入るのかを話し合います。那彩は、今でも「父娘水入らず」で一緒に天体観測をしていて、星のことや昔の話など、たわいのないおしゃべりをしているので、「共通の趣味」「たわいのないおしゃべり」という内容が **X** に入ると思います。

はるとさん 今はそうでもないですが、昔は父親と話したいという気持ちが強かったと思うので、その内容も **X** に入れたいです。

ふゆみさん 千春は、那彩にお父さんと仲がよいのかと聞かれて「ふつう」と答えているので、**Y** には「ふつう」が入ると思います。

あすかさん 「ふつう」だけだと関係性がよくわからないので、その後には「仲はよくも悪くもない」という言葉を **Y** に入れたほうがよいのではないですか。

みきおさん 千春はお父さんとふたりきりになることがあまりなく、話もしないので、愛情を感じられなくなっているということも **Y** に詳しく書いておくと、よりよいと思います。

ちづるさん 那彩のお父さんは、千春と那彩と一緒に天体観測をした

かったのに急な出張で不在だと書かれていました。お父さんが那彩に積極的に関わろうとしているという点も、**X** に入れるべきです。

- ① なおおこさん ② はるとさん ③ ふゆみさん
④ あすかさん ⑤ みきおさん ⑥ ちづるさん

(七) この文章の内容に合うものを次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 **13** にマークしなさい。

① 千春はひとりっ子であるがゆえに、服装や髪型を工夫して、弟たちに対し母親のように振る舞う那彩の姿に戸惑いを感じていたが、那彩と二人きりで話し、考えまでもが大人びている那彩をどこか嬉しいというらやましく感じている。

② 家庭環境の異なる千春が、那彩の弟たちの騒がしさに耐えうるかを心配していた那彩だったが、千春が那彩の家族と打ち解け、さらに天体観測自体も楽しんでくれたことで、二人の絆の深まりを実感し、うれしく思っている。

③ 兄弟の多い那彩は、自分なりに工夫をすることで父親との二人の時間をつくり出していたが、成長するに従って、以前ほどに父親との関わりを重視しなくなってきたことを自覚し、その状態を自然なこととして受け入れている。

④ 千春は、那彩との会話をきっかけに、自分はひとりっ子なのに両親との共通の趣味や密な会話をしていないことに気づかされ、今後、特に父親との距離を縮めるためにはどうしたらよいかを自分なりに前向きに考え始めている。

⑤ ベランダで話すうちに、那彩が千春に話を合わせるために今まで「好きな男子」の話題を我慢していたと気がついた千春は、那彩に気を遣わせていたことを反省するとともに、今後は那彩の好きな話題をもっと取り入れようと心に決めている。

次の文章を読み、各問いに答えよ。

人間の判断にはさまざまなバイアス（先入観）が伴うことは多くの研究から明らかになっていますが、ここからは原因帰属に関わるバイアスに注目し、順番に理解していきましょう。私自身もこれから示す誤った原因帰属を何度もした経験があります。また、家族や友人が誤った原因帰属をしている場面を目にすることも多々ありました。いくつか例も挙げますので、みなさんも自分自身や近い人たちのことをぜひ思い出しながら読み進めてみてください。

私たちは他者の行為を、行為者の能力や性格などの内的な要因に帰属しやすい傾向にあります。これを根本的な帰属のエラーといいます。対応バイアスと呼ばれることもあります。このエラーが起こる大きな理由は、私たちができるだけだけ労力を割かずには他者の行動の原因を考えようとするからです。他者がおかれた環境といった外的な要因の存在や、それらが他者の行為に及ぼす効果を確認するには時間が必要です。人は極力自分の認知的資源（頭の中でいろいろ考える時に消費するエネルギーのようなもの）を使わず、短い時間で素早くものごとを理解したがるクセがあるため、しばしばこのような外的要因の検討を行わずに、行為の原因を内的要因に求めようとしがちなのです。

^A 一般的に見られる反応や行為と異なるケースを観察した場合、つまり合意性が低いと思われる他者の行為は、内的帰属が行われやすいということもあります。並んでいる列に割り込む、筆箱を忘れた隣の人の鉛筆を貸してあげないなど、規範やルールの範疇に収まらない行為は必然的に合意性が低くなります（なぜなら多くの人が守るべきものが規範やルールとされるからです）。そのため、「自分勝手な人だ」、「意地悪な人だ」のように内的要因に原因を帰属させる傾向が顕著になるのです。

私がよく犯していた根本的な帰属のエラーの例としては、スーパーや公共交通機関などで泣いて大きな声を出している自分の子どもに何も反

応しないお母さんやお父さんに対して「冷たい親だな」とつい親の側の内的要因に原因帰属していた、というものがああります。もしかすると子育てに疲れ果てた状態なのかもしれませんし、あえて反応しないことで子どもが自分の力で落ち着くように待ってあげているのかもしれないかもしれません。実際に自分が子育てをしたり、子育てをしている人を間近で観察する機会が増えてくると、次第に観察された行動のみに基づく内的な原因帰属が少なくなり、さまざまな原因が存在しうる可能性に思いが至るようになりましした。ある特定の場面（私の場合、育児）に関わる経験や知識、類似場面を対象とした観察回数増加は、内的要因にのみ原因を求め、ネガティブな印象を持ってしまふようなことの抑制につながるでしょう。

自尊心を守るために陥りがちな原因帰属には、利己的帰属バイアス、つまり、自分自身の成功は能力や努力などの内的要因に、失敗は運や課題の難しさなどの外的要因にその原因を求めるというものがあります。みなさんもこれまでの人生で多少ならず経験しているかもしれません。失敗して傷つきたくない、成功して褒められたい、という思いは年齢を問わずに多くの人が抱くでしょう。

我が家の小学生の息子たちも頻繁に利己的な原因帰属をします。ちょうどこの前、裁縫の玉止めと玉結びの宿題中に聞こえてきた息子の発言を紹介します。針に糸を通して、玉止めをし、教材の布を使って玉結びの練習をしていたのですが、初めての挑戦なこともあり一向にうまくいきません。その時に彼の口から出てきたのが「なんだよもう！」^Xです。そしてしばらく格闘した結果、無事に玉結びに成功すると、「できた！」^Yと満足げに言いました。典型的な利己的帰属バイアスに、ついつい笑ってしまったものです。大人はさすがに、こんな短時間の中に異なる方向の都合のいい帰属をしてしまうことはないでしょうが、どちらか一方だけであれば珍しくはありません。

他者の行為の原因をどのような割合で内的／外的要因に求めるのかに

は、文化差があることも示されています。ここからは、原因帰属の文化差を明らかにしたミラー (Miller, 1984) の研究の一部を紹介します。みなさん、アジアの人たちと北米の人たちのどちらが他者の行為に対して内的帰属を行いやすいと思いますか？ まずは予想してみてください、それから読み進めると面白いかもしれません。

ミラーは、インドとアメリカの2つの国で、大人と子ども(8歳、11歳、15歳のグループ)を対象に研究を行いました。研究参加者に、「あなたがよく知っている人の最近の行動で、あなたが間違っていると思っただこと(逸脱行動)、あなたが良いと思ったこと(向社会的行動)を教えてください。(いずれも意図的な行為に限定し、習慣のような行動は除外しています)」と尋ね、その後、なぜその人がその行為をしたと思うかについて回答を求めました。そして、参加者が回答した他者の逸脱行動、向社会的行動の原因に関わる発言部分を対象として、内的帰属と外的帰属がされていた割合を算出しました。発言内容の分類は、ミラーに加えて、研究協力者のアメリカ人、インド人によって行われ、客観性が一定以上に保たれていることを確認しました。算出した値を、文化、年齢、行動の種類ごとに示した結果が図1-1(内的帰属)、1-2(外的帰属)になります。

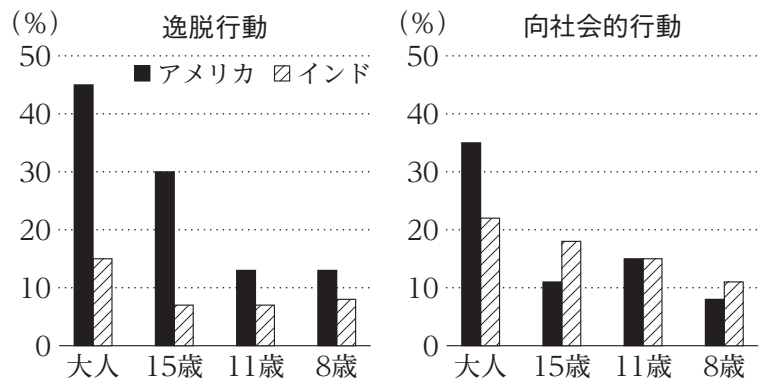


図1-1 年齢、文化ごとの内的帰属の割合

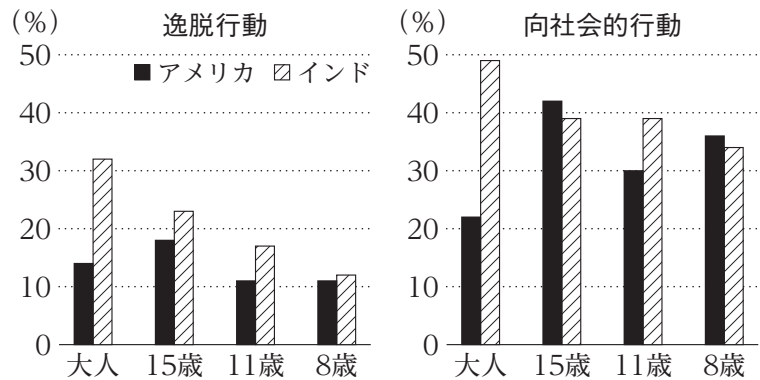


図1-2 年齢、文化ごとの外的帰属の割合

それぞれの図が示していることについて、詳しく説明をしていきます。まず、内的帰属を対象とした比較を見ると、大きく2つのことがわかります。

一つは、年齢が上がると、アメリカ人の方がインド人よりも他者の行動の原因を内的要因に帰属しやすいこと、そしてその傾向は逸脱行動でより顕著に見られるということです。内的帰属の多くは、その人物の能力や好みというよりは、性格に言及するものでした(例:「その人が親切だから」)。また、逸脱行動では、アメリカ人の大人が示した原因の実に40%以上が内的要因に言及しています。一方、インド人では20%に満たない程度です。規範やルールの範疇に収まらない、合意性が低く見積

もられるような行動は内的要因に帰属されやすいという話は根本的な帰属のエラーの説明でも触れました。そのような傾向は、アメリカ人で特に見られる可能性があると言えるでしょう。

では、行動の原因を環境や状況といった外的な要因に帰属した割合は文化によってどのように違うのでしょうか。結果のパターンは、図1と逆であることがわかります。つまり年齢が上がるにつれて、インド人の方がアメリカ人よりも他者の行動の原因を外的な要因に帰属しやすかったのです。向社会的行動では、インド人の参加者が説明した行動の原因の約半分が外的要因に帰属されました。社会的な役割ゆえの行動であるとか、その行動に関わる他者との関係性ゆえの行動であるという形で原因が説明されている傾向があったと報告されています。

インドとアメリカで、他者の行動の原因帰属の仕方が異なることがわかりましたが、その背景要因には思考スタイルや自分についての認識の仕方（自己観）の違いが想定されています。

アメリカを含む西洋の文化では、さまざまな事象は相互に独立しているという見方が広く受け入れられています。原因帰属を行う際も、その時に観察可能な「最小サイズの原因と結果の関係」に注目します。また、自分自身の存在を周囲の環境と切り離して理解します。つまり自分は、周囲からは独立した、主体性を持った唯一無二の存在であると考えているのです。そのため、他者の行動に対しても、その人自身の独自の特徴が反映されたものだと考える内的帰属が行われます。

一方で、インドや日本を含む東洋の文化では、さまざまな事象は互いどこかで、何かしら関連しあっているという見方が広く受け入れられています。そして、周囲との関係性や、自分が所属する集団が、現在の自分を作り上げているのだという認識をもっています。ゆえに、他者の行動も、その人の社会的な役割や、ある種の「制約」が反映されたものだと考え、外的帰属が行われやすいということになります。

このような文化の違いを実感するためには、「20の私」という課題に

挑戦してみるといいでしょう。この課題は「私は」。の空欄に入る言葉を20個書き出してみるといいものです。最初の5個くらいはわりとすぐ思いついても、なかなか20個は挙げられないという人が多いようです。みなさんは20個書き出せますか？

んはどうでしたか？

（村山綾『心のクセ』に気づくには 社会心理学から考える』より。出題の都合により一部表記の変更・省略をした箇所がある。）

（注）原因帰属IIなぜそうするのか、なぜそうなるのか、と原因を考えること。「帰属」とは、何かに所属していることを意味するが、心理学では、出来事や行動の原因を何かのせいにすることを指す。

ミラーIIJ・G・ミラー。「行動科学」に関する有名な研究者。

（一）合意性が低いとは、どういう意味か。最も適切なものを、次の①〜⑤から一つ選び、その数字を解答番号14にマークしなさい。

- ① さまざまな評価が生じる。
- ② 同じ考えを持つ人が少ない。
- ③ 多くの人が賛成する。
- ④ 事実在即していない。
- ⑤ 独自の新鮮さがある。

(二) X・Yにあてはまる言葉として最も適切なものを、次の

①～⑧からそれぞれ一つずつ選び、その数字を、Xは解答番号15に、Yは解答番号16にマークしなさい。

- ① 俺は天才だ!
- ② 裁縫はなんて楽しいんだ!
- ③ この針と糸はすごい!
- ④ 裁縫って大切だ!
- ⑤ 針と糸が不良品だ!
- ⑥ 裁縫なんて嫌いだ!
- ⑦ 俺は不器用だ!
- ⑧ 裁縫なんて無駄だ!

(三) B そのような傾向とあるが、この傾向にあてはまるものとして最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号17に

マークしなさい。

- ① ルールを尊重したり、困っている人を助けたりする人について、良い教育を受けていると判断する傾向。
- ② ルールを尊重したり、困っている人を助けたりする人について、性格が良く付き合いやすいと判断する傾向。
- ③ ルールを守らなかったり、困っている人を助けなかったりする人について、関わり合いたくないと感じる傾向。
- ④ ルールを守らなかったり、困っている人を助けなかったりする人について、教育が不十分だと判断する傾向。
- ⑤ ルールを守らなかったり、困っている人を助けなかったりする人について、性格が良くないと判断する傾向。

(四) C その背景要因には思考スタイルや自分についての認識の仕方(自己観)の違いが想定されていますとあるが、ここでの「思考スタイルや自分についての認識の仕方(自己観)の違い」とはどのようなものか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号18にマークしなさい。

- ① 個別の事象や人間の行動は、その人自身の内面に原因があると考えるか、その人の周りの環境に原因があると考えるかの違い。
- ② 個別の事象や個々の人間同士は、どこかで関連し合っていると考えるか、無関係で独立しているかと考えるかの違い。
- ③ あらゆる事象は、住む国による影響を受けると考えるか、環境や個人の認識による影響を受けると考えるかの違い。
- ④ 環境は、常に個人に悪い影響を及ぼすと考えるか、関わり方によっては良い影響を及ぼすと考えるかの違い。
- ⑤ 環境などの外的要因は、個人の行動によって決まると考えるか、行動とは関係なく決定されているかと考えるかの違い。

(五)

zには、どのような内容が入ると考えられるか。この文章の内容から考えて最も適切だと考えられるものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 19 にマークしなさい。

- ① アメリカ人には、「私は優しい」「私は数学が得意」のように外的な要因に関わる特徴を挙げる傾向が見られるが、日本を含むアジアの人には、「私は高校生」「私は未成年」のように内的要因を挙げる人が多い。
- ② 日本を含むアジアの人には、「私は優しい」「私は数学が得意」のように外的な要因に関わる特徴を挙げる傾向が見られるが、アメリカ人には、「私は高校生」「私は未成年」のように内的要因を挙げる人が多い。
- ③ アメリカ人には、「私は高校生」「私は未成年」のように外的な要因に関わる特徴を挙げる傾向が見られるが、日本を含むアジアの人には、「私は優しい」「私は数学が得意」のように内的要因を挙げる人が多い。
- ④ 日本を含むアジアの人には、「私は高校生」「私は未成年」のように外的な要因に関わる特徴を挙げる傾向が見られるが、アメリカ人には、「私は優しい」「私は数学が得意」のように内的要因を挙げる人が多い。
- ⑤ 日本を含むアジアの人にもアメリカ人にも、「私は高校生」「私は未成年」のように外的な要因に関わる特徴を挙げる傾向が見られ、「私は優しい」「私は数学が得意」のように内的要因を挙げる人は少ない。

(六)

この文章の論の展開についての説明として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 20 にマークしなさい。

- ① まず原因帰属に関わるバイアスについて具体例を提示しながら説明し、次に原因帰属の文化差について具体的な数値を用いて示したうえで、文化差を尊重することの必要性を示唆している。
- ② まず原因帰属に関わるバイアスという話題を提示し、次にアメリカとインドを例に東西の文化差を説明したうえで、最後に原因帰属のエラーについて内的要因と外的要因に分けてまとめている。
- ③ まず原因帰属に関わるバイアスについて説明し、次にアメリカ人とインド人の原因帰属に関する研究結果を題材に挙げながら、東西の文化の違いが原因帰属バイアスに与えている影響について論じている。
- ④ まず個人の中にある原因帰属に関わるバイアスを明らかにし、次に具体的な例を提示しながら個人と環境との関わりについて論じたうえで、文化差による誤解を根深い問題として提起している。
- ⑤ まず原因帰属に関わるバイアスの問題点を明らかにし、次に具体的な例を提示しながら文化差について論じたうえで、研究結果の数値を根拠にバイアス解消の重要性を説いている。

四

次の文章は、江戸時代の随筆『たはれ草』の一部である。これを読み、各問いに答えよ。

くすしは、そのしりたるほどは、それはよし、これはあしと、人の
(医者)

おもてをやぶりてもいふべきなれど、さあるくすしはまれなるこそうら
(体面を) (残念だ。)

めしけれ。

それがしわかきとき、武蔵むさしにありしに、そのころまでは人参にんじんを用ふる
(私が若かったとき、武蔵にいたのだが) (朝鮮人参を治療に使う)

くすし、はなはだまれなり。もしも人参を用ふるくすしあれば、下手な

りといへり。世の人、人参の功ある事をしらずとて、杉某すぎたむといへるく

すし、つねにうれへとしてかたりき。その後、李士材りしざい、蕭万興せうばんようなどいへ
(悩み)

るものゝ方書、世に行はれ、けふこのごろにいたりては、かるきやまひ
(医学書が世の中に広まり)

にも、人参を用ひざるくすしは少なし。もしも人参を用ひざるくすしあ

れば、下手なりといへり。さるころ、また武蔵にゆき、杉某すぎたむにあひしに、
(そんなところに)

世の人、人参の害ある事をしらずとかたりて、その事のみうれい。定ま
(思い悩む。)

りたる見識ありて、世のはやりにしたがはざるこそたうとけれ。

(出題の都合により一部文章を省略した箇所がある。)

(注) 武蔵むさし地名。今の東京都、埼玉県、神奈川県あたり。

人参にんじん朝鮮人参のこと。薬として使われた。

杉某すぎたむ「某」は名前を出さずに人を表すときに使われる言葉。こ

こでは「名字は杉、名前は〇〇(何々)という人」という

意味で、正確な名前をあえて伏せている。

李士材、蕭万興せうばんようどちらも、中国の高名な医師。

(一) さあるくすし とあるが、どのような医者のことか。その説明として

最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号
21 にマークしなさい。

- ① 正しい知識よりも、自分の体面を優先する医者。
- ② 正しい知識も、自分の体面も大事にする医者。
- ③ 自分の体面よりも、正しい知識を優先する医者。
- ④ 正しい知識よりも、相手の体面を優先する医者。
- ⑤ 相手の体面よりも、正しい知識を優先する医者。

(二) つねにうれへとしてかたりき とあるが、なぜ悩んでいるのか。本文中

中で述べられている理由として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 **22** にマークしなさい。

- ① 自分が知っている人参に関する知識が世の中に広まっておらず、ほとんどの医者故人参を使わないから。
- ② 人参の効果が公の場で実証されておらず、治療に人参を使うことが禁止されているから。
- ③ 患者故人参を治療に使ってほしいと思っても、多くの医者故人参の効果を認めていないから。
- ④ 世の中の人故人参に害があることを知らずに、治療に人参を使ってほしいと主張するから。
- ⑤ 人参に関する知識が医者だけの秘密になっているせいで、人参を嫌がる患者が多いから。

(三) 人参を用ひざるくすしは少なし の意味として最も適切なものを、次の①～④から一つ選び、その数字を解答番号 **23** にマークしなさい。

- ① 人参を治療に使う医者はあまりいない。
- ② 人参を治療に使わない医者はあまりいない。
- ③ 人参を治療に使わない医者が少なからずいる。
- ④ 人参を治療に使わない医者になる気はない。

(四) その事のみうれふ とあるが、誰が思い悩むのか。最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 **24** にマークしなさい。

- ① 李士材、蕭万興など
- ② 人参
- ③ 杉某
- ④ 世の人
- ⑤ 筆者

(五) この文章を読んだ生徒たちが次のような話し合いをしている。本文の内容に合わない発言をしている人物の名前を、後の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 25 にマークしなさい。

先生 この文章では、筆者が優れていると感じた医者である、杉氏の考え方や姿勢について述べられていましたね。みなさんの身の回りでは、杉氏の考え方や姿勢にあてはまるような出来事などはありますか。

春男さん 私は、この文章を読んで、吹奏楽の部活動での出来事を思い出しました。全員で合奏するのがいちばん楽しいので、多くの部員はすぐに合奏練習をしたがるのですが、部長は、基礎練習の大切さを主張してパートごとの練習を多く行うメニューを作っていました。部長の周りに流されない姿勢が、杉氏と同じだと思いました。

夏美さん 私も春男さんと同じ吹奏楽部ですが、入部したての一年生は特に、早く曲を演奏したくて単純な練習を軽く考えがちですね。基礎練習をして正しい技術を身に付けなければ上手にならない、という正しい認識をもつことが大切だと思いました。部長の、正しい知識をもとに物事を判断する点も、杉氏と重なります。

秋子さん 正しい知識と言えば、私の所属するバスケットボール部では、基礎練習以外に、週に一時間、座学の時間を設けています。その時間では、部員が書籍などで調べた情報を共有するようにしています。たとえば先日は、シュートの動きをしたときに、どの筋肉がどのように伸縮しているのか、筋肉のしくみや働きについての知識を共有しました。自分のみならず、多くの人が正しい知識を共有することが大事だという杉氏の考え方に合っていると感じます。

冬絵さん 正しい知識の共有、よい取り組みですね。私はバドミントン部ですが、私の部では、遠慮をせずに物事をはっきりと言うよ

うにしています。相手のショットがよくなかったときに、先輩や後輩関係なく、下手だ、ということをはっきりと伝えます。物事のよしあしをはっきりと相手に言ったほうがよいという杉氏の考えと合っていると思いました。

勇太さん 人の意見を受け入れることで、成長につながることはありませんよ。僕は、人の意見を聞いたうえで、自分できちんと調べたり判断したりすることが大切だと先日実感しました。姉が、「食べると痩せる」という理由でみんなが食べているある食材を毎日食べていたのですが、僕が調べてみると、科学的な根拠がなく流行っているだけのようでした。周りがそうだから大丈夫、みんなが使っているから正しいと考えるのは誤りだという僕の考えと、杉氏の考えは同じように思います。

- ① 春男さん ② 夏美さん ③ 秋子さん
④ 冬絵さん ⑤ 勇太さん

五

次の文章は、中学三年生の花枝さんが、「ボランティアについて」という題でスピーチをするために作成した【原稿】である。花枝さんが伝えたい内容が最も効果的に分かりやすく伝わるように、※にあてはまるものを後の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 26 にマークしなさい。

【原稿】

ボランティアというと、誰かのために役に立ったり社会に貢献する活動をしたりするもの、というのが一般的な考えです。けれども私は、この夏、地域の老人ホームにおける一日介護職体験のボランティアに参加して、とても大きな学びを手に入れることができました。

※

小さなことですが、人と関わりをもちたいと思ったら、まず「笑顔で挨拶」をすることがとても大切です。そんな大切なことを学ぶことができた貴重な経験でした。これから私も高校生となり、もっとたくさんの人と出会ふことになるでしょう。そんな私にとって、「笑顔で挨拶」はとても大事な指針になります。ボランティアに参加することができて本当に良かったと思っていますし、みなさんも、人と関わるときに「笑顔で挨拶」ということを意識してみてください。これで、私のスピーチを終わります。

① ボランティアでは、お年寄りの方との交流をしなくてはならないので、人見知りの私は少し気が重かったのですが、施設の方が、笑顔で挨拶をするといいと教えてくれたので、実践してみると、心配したほど困らずにコミュニケーションができました。やはりプロはすごいと思いました。アドバイスをしてくれた職員の方に心から感謝したいと思います。午後も交流の時間がありました。おやつ準備を手伝いながら、問題なくコミュニケーションを取ることができたのでよかったです。

② ボランティアでは、朝九時半に学校に集合して施設に向かいました。施設の方の説明を聞いて、十時に仕事が始まりました。主な仕事は、お年寄りの方との交流でした。私は施設の人のアドバイスで、「笑顔で挨拶をする」ことで、お年寄りの方と仲良くなれました。十二時にはみなさんに食事を配って食べる手伝いもしました。午後は、食事の後片付けをしてから、また交流をしました。四時に終了し、施設の方に感想を伝えてから帰宅しました。

③ ボランティアとは、自分の意志で人や社会のために活動することです。私はまだ中学生ですが、少しでも社会のためになればと考えて、このボランティアへの参加を決めました。人見知りなので最初は勇気が必要でしたが、思い切って笑顔で挨拶をするとお年寄りの方も挨拶をしてくれました。そして、お互いに自分たちの話をして打ち解けることができました。足りないところを補い合って社会全体を明るくするために、ボランティア活動が大切だということが分かりました。

④ ボランティアの仕事は、お年寄りの方との交流が中心でしたが、私は人見知りでどうしたらよいか分からず、最初は立って見ているだけでした。そのとき施設の方が、「まずは笑顔で挨拶」と声をかけてくださったので、思いきって「こんにちは」と声をかけると、お年寄りの方もニコリほほ笑んで挨拶をしてくれました。それから、毎日の暮らしぶりやお孫さんたちの話などをたくさん聞かせてくれて、自分でも信じられないくらい会話が続けることができました。

⑤ このボランティアでは、お年寄りの方と楽しく話げできました。施設の方が「まずは笑顔で挨拶してみよう。」とアドバイスをくれたからです。お年寄りの方に話しかけたら、毎日の暮らしぶりやお孫さんたちの話をたくさん聞かせてくれました。ですが、最初は人見知りで話しかけられませんでした。話が盛り上がり、私も家族の話をしました。施設の方のアドバイスがなければ、最後まで話しかけられなかったかもしれません。

